※令和４年度以降入学生用

学校番号	329

令和８年度　地理歴史科

教科	地理歴史	科目	(学)日本史	単位数	３単位	年次	３年次
使用教科書	『詳説日本史』　（山川出版社）						
副教材等	『図説　日本史通覧』　（帝国書院）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・「日本史」では「日本史探究」「歴史総合」の学習によって身に付けた資質・能力を基に、日本の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連付けながら総合的に捉えて理解するとともに、事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを考察し、よりよい社会の実現を視野に、歴史的経緯を踏まえて、現代の日本の課題を探究する科目です。
・「日本史」では、歴史について、調べ、まとめ、考察し、さらによりよい社会の実現を視野に課題を探究することなどの主体的な活動を通じて、自分で根拠を確認した情報に基づいて自ら考える力を養うことが求められています。それは、考える力を養うとともに、先人たちが犠牲をはらいながら積み重ねてきた貴重な経験を現代の社会に生かす学習であり、それを通じて、改めて歴史を学ぶ意味の大きさを理解することも期待されます。ただ知識を身に付けるだけではなく、歴史に学んで考える力を身に付けてもらいたいと思います。

2　学習の到達目標

(1) 我が国の歴史の展開に関わる諸事象について，地理的条件や世界の歴史と関連付けながら総合的に捉えて理解するとともに，諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
(2) 我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義，伝統と文化の特色などを，時期や年代，推移，比較，相互の関連や現在とのつながりなどに着目して，概念などを活用して多面的・多角的に考察したり，歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や，考察，構想したことを効果的に説明したり，それらを基に議論したりする力を養う。
(3) 我が国の歴史の展開に関わる諸事象について，よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに，多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚，我が国の歴史に対する愛情，他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

※令和４年度以降入学生用

３　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	○我が国の歴史の展開に関わる諸事象について，地理的条件や世界の歴史と関連づけながら総合的にとらえて理解しているとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけることができる。	○我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史にみられる課題を把握し解決を視野に入れて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論したりする力を身に付けている。	○我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを持つことができている。
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

※令和４年度以降入学生用

４　学習の活動

	単元名	学習内容		単元(題材)の評価規準	評価方法		
					知(a)	思(b)	主(c)
1学期	第Ⅰ部　原始・古代	第1章　日本文化のあけぼの	1　文化の始まり 2　農耕社会の成立	a:日本列島における旧石器文化・縄文文化の成立と変容を、自然環境の変化や大陸との影響に着目して理解している。 b:黒曜石などの考古資料をもとに、集落・風習・食生活の変化などを踏まえて旧石器文化・縄文文化の社会について考察し、表現している。 c:黎明期の日本列島の歴史的環境と文化の形成について考察することを通じて、旧石器文化や縄文文化の特色を明らかにしようとしている。	○定期考査 ○提出課題 ○発問評価	○定期考査 ○提出課題 ○発問評価 ○発表・レポート提出	○提出課題 ○授業態度 ○発表・レポート提出
		第2章　古墳とヤマト政権	1　古墳文化の展開 2　飛鳥の朝廷	a:水稲耕作の開始・金属器の伝来が弥生文化の社会に与えた影響を理解し、弥生土器などの出土品から得られる情報を収集して読み取る技能を身につけている。 b:小国の形成から邪馬台国などの小国の連合について、環濠集落や武器の出現、「魏志」倭人伝などの文献資料にもとづき、国内外の情勢を踏まえて多角的に考察した結果を、根拠を示して表現している。 c:日本列島における農耕社会の特色とともに、国家の形成につながるような社会構造の変化について考察することを通じて、弥生文化の特色を明らかにしようとしている。	○定期考査 ○提出課題 ○発問評価	○定期考査 ○提出課題 ○発問評価 ○発表・レポート提出	○提出課題 ○授業態度 ○発表・レポート提出

※令和４年度以降入学生用

		第3章　律令国家の形成	1　律令国家への道 2　平城京の時代 3　律令国家の文化 4　律令国家の変容	a:平城京における大宝律令・養老律令による律令体制の整備について、遣唐使の派遣や地方社会との関わりなどに着目して理解している。 b:文献資料をもとに、藤原氏を中核とする政治抗争の進展と墾田永年私財法にみられる土地制度の変容を関連づけて考察し、根拠を示して表現している。 c:平城京の造営と奈良時代の政治の動向に着目して、律令体制の展開に関する課題を主体的に追究しようとしている。	○定期考査 ○提出課題 ○発問評価	○定期考査 ○提出課題 ○発問評価 ○発表・レポート提出	○提出課題 ○授業態度 ○発表・レポート提出
		第4章　貴族政治の展開	1　摂関政治 2　国風文化 3　地方政治の展開と武士	a:藤原北家が権力を掌握していく過程を資料から読み取り、律令体制の変容の観点から摂関政治を理解している。 b:国際関係の変化や遣唐使の廃止などを踏まえ、浄土教の出現による浄土の信仰の変容、かな文学の成立による国文学の発達などに着目して、貴族の生活・文化の特色を考察し、表現している。 c:平安時代の政治の在り方と文化との関係を考察することを通じて、そのつながりを見出そうとしている。	○定期考査 ○提出課題 ○発問評価	○定期考査 ○提出課題 ○発問評価 ○発表・レポート提出	○提出課題 ○授業態度 ○発表・レポート提出

※令和４年度以降入学生用

	第Ⅱ部　中世	第5章　院政と武士の躍進	1　院政の始まり 2　院政と平氏政権	a:貴族政治や土地制度の変容などをもとに、諸資料から得られる情報を適切かつ効果的に調べてまとめ、古代から中世の国家・社会の変容を理解している。 b:武士が台頭する契機や、この時期の土地制度の仕組みなどを考察し、古代から中世への時代の転換について根拠を示して表現している。 c: 中世社会の特色について多面的・多角的に考察することを通じて、時代を通観する問いを表現し、追究しようとしている。	○定期考査 ○提出課題 ○発問評価	○定期考査 ○提出課題 ○発問評価 ○発表・レポート提出	○提出課題 ○授業態度 ○発表・レポート提出
		第6章　武家政権の成立	1　鎌倉幕府の成立 2　武士の社会 3　モンゴル襲来と幕府の衰退 4　鎌倉文化	a:諸資料から情報を読み取り、源平争乱から鎌倉幕府の成立過程、幕府と朝廷の二元的支配構造、封建制度の成立などについて理解している。 b:幕府と朝廷の二元的支配構造の特色について、諸資料から得られた情報をもとに、根拠を明確にして表現している。 c:鎌倉幕府の成立過程や封建制度の形成に関する課題を主体的に追究し、前の時代とのつながりを見出そうとしている。	○定期考査 ○提出課題 ○発問評価	○定期考査 ○提出課題 ○発問評価 ○発表・レポート提出	○提出課題 ○授業態度 ○発表・レポート提出

※令和４年度以降入学生用

		第7章　武家社会の成長	1　室町幕府の成立 2　幕府の衰退と庶民の台頭 3　室町文化 4　戦国大名の登場	a:鎌倉幕府滅亡後の政治権力の推移と武家の関係、日明貿易の展開と琉球王国の成立などについて、諸資料から情報を収集して理解している。 b:南北朝の動乱などにみられる地域の政治・経済の基盤をめぐる対立や、東アジアの国際情勢の変化とその影響について、多面的・多角的に考察し、表現している。 c:武家政権の変容や東アジアの国際情勢の変化などに着目し、諸資料を活用して前後の時代とのつながりを見出そうとしている。	○ 定 期 考査 ○ 提 出 課題 ○ 発 問 評価	○ 定 期 考査 ○ 提 出 課題 ○ 発 問 評価 ○発表・レポート提出	○ 提 出 課題 ○ 授 業 態度 ○発表・レポート提出
	第Ⅲ部　近世	第8章　近世の幕開け	1　織豊政権 2　桃山文化	a:村落や都市の支配の変化、アジア各地やヨーロッパ諸国との交流に関する諸資料から情報を読み取り、織豊政権の特色や貿易・対外関係について理解している。 b:織豊政権の諸政策の目的や、ヨーロッパ諸国の進出がアジアに与えた影響などについて多面的・多角的に考察し、表現している。 c:時代の転換に着目して、中世から近世の国家・社会の変容を多面的・多角的に考察し、時代を通観する問いを表現しようとしている。	○ 定 期 考査 ○ 提 出 課題 ○ 発 問 評価	○ 定 期 考査 ○ 提 出 課題 ○ 発 問 評価 ○発表・レポート提出	○ 提 出 課題 ○ 授 業 態度 ○発表・レポート提出

※令和４年度以降入学生用

2学期		第9章　幕藩体制の成立と展開	1　幕藩体制の成立 2　幕藩社会の構造 3　幕政の安定 4　経済の発展 5　元禄文化	a:織豊政権との類似と相違、アジアの国際情勢の変化などに着目して、諸資料をもとに江戸幕府の法や制度の確立や対外政策の推移について理解している。 b:織豊政権と幕府の支配の構造の相違点や、江戸幕府による貿易統制の意義について多面的・多角的に考察し、表現している。 c:幕藩体制が確立する過程における様々な画期について考察し、主体的に追究しようとしている。	○定期考査 ○提出課題 ○発問評価	○定期考査 ○提出課題 ○発問評価 ○発表・レポート提出	○提出課題 ○授業態度 ○発表・レポート提出
		第10章　幕藩体制の動揺	1　幕政の改革 2　宝暦・天明期の文化 3　幕府の衰退と近代への道 4　化政文化	a:幕府・諸藩の経済的窮乏、百姓一揆・打ちこわしの頻発などに関する諸資料から情報を読み取り、享保の改革や田沼時代の諸政策の意義について理解している。 b:商品作物の栽培や貨幣経済の浸透により、米作を基盤とする幕藩体制が動揺する過程を踏まえ、飢饉や一揆の発生が幕藩体制に与えた影響を考察し、表現している。 c:幕藩体制下の社会・経済の仕組みの変化や、幕府・諸藩の政策の変化について課題を見出し、主体的に追究しようとしている。	○定期考査 ○提出課題 ○発問評価	○定期考査 ○提出課題 ○発問評価 ○発表・レポート提出	○提出課題 ○授業態度 ○発表・レポート提出

※令和４年度以降入学生用

	第Ⅳ部　近代・現代	第11章　近世から近代へ	1　開国と幕末の動乱 2　幕府の滅亡と新政府の発足	a:欧米諸国の進出によるアジア諸国の変化について諸資料から適切に情報を読み取り、江戸幕府が対外政策を転換して開国に至る経緯などを理解している。 b:日本が直面していた国内外における諸課題を踏まえ、政治や経済などの諸側面の変化などを多面的・多角的に考察し、表現している。 c:日本の開国に関わる諸事象を国際的な視点から考察し、開国のもたらす政治的・経済的・社会的影響について主体的に追究しようとしている。	○定期考査 ○提出課題 ○発問評価	○定期考査 ○提出課題 ○発問評価 ○発表・レポート提出	○提出課題 ○授業態度 ○発表・レポート提出
		第12章　近代国家の成立	1　明治維新と富国強兵 2　立憲国家の成立	a:明治政府による中央集権化の諸政策と士族反乱の終焉、欧米・アジア諸地域との国際関係、文明開化の風潮について、諸資料から情報を読み取って理解している。 b:諸制度の改革が地域社会にもたらした変化や諸外国と結んだ条約の相互比較、欧米の思想・文化の影響などを多面的・多角的に考察し、表現している。 c:明治維新や文明開化の風潮が展開する中で生じた様々な課題や、歴史の展開における画期についての課題を見出し、主体的に追究しようとしている。	○定期考査 ○提出課題 ○発問評価	○定期考査 ○提出課題 ○発問評価 ○発表・レポート提出	○提出課題 ○授業態度 ○発表・レポート提出

※令和４年度以降入学生用

３学期		第13章　近代国家の展開	１　日清・日露戦争と国際関係 ２　第一次世界大戦と日本 ３　ワシントン体制	a:日清・日露戦争の前後における条約改正の完成、韓国併合や満洲への勢力拡張などについて諸資料から情報を読み取り、この時期の戦争の様相や背景、日本の国際的地位の変化を理解している。 b:議会が戦争を支持する一方で反戦論が存在したこと、戦争が国民としての自覚や意識の高まりをもたらしたことなどについて多面的・多角的に考察し、根拠を明らかにして表現している。 c:対外的な戦争が日本の近代化の過程の中でもった意味を考察し、主体的に追究しようとしている。	○定期考査 ○提出課題 ○発問評価	○定期考査 ○提出課題 ○発問評価 ○発表・レポート提出	○提出課題 ○授業態度 ○発表・レポート提出
		第14章　近代の産業と生活	１　近代産業の発展 ２　近代文化の発達 ３　市民生活の変容と大衆文化	a:産業の発達の背景と影響などに着目し、諸資料から産業革命の展開について適切に情報を読み取り、地域社会における労働や生活の変化が社会問題を生み出したことを理解している。 b:地域社会の変化などを踏まえて産業全般の変化がもたらされたことや、労働問題や公害問題の発生について多面的・多角的に考察し、表現している。 c:産業の発展とそれによる社会問題への対応について課題を見出し、自ら主体的に追究しようとしている。	○定期考査 ○提出課題 ○発問評価	○定期考査 ○提出課題 ○発問評価 ○発表・レポート提出	○提出課題 ○授業態度 ○発表・レポート提出

※令和４年度以降入学生用

		第15章　恐慌と第二次世界大戦	1　恐慌の時代 2　軍部の台頭 3　第二次世界大戦	a:国際社会やアジア近隣諸国との関係に着目して、日本で連続した恐慌と政府の対応などに関わる諸資料から情報を読み取り、恐慌と国際関係について理解している。 b:ワシントン体制下の協調外交が、中国における民族運動の進展や日本の経済の動向によって次第に緊張が高まったことについて考察し、根拠を明確にして表現している。 c:当時の新聞などから世論の動向を読み取ったり、様々な人々の議論について考察したりして、課題を主体的に追究しようとしている。	○定期考査 ○提出課題 ○発問評価	○定期考査 ○提出課題 ○発問評価 ○発表・レポート提出	○提出課題 ○授業態度 ○発表・レポート提出
		第16章　占領下の日本	1　占領と改革 2　冷戦の開始と講和	a:第二次大戦前後の政治や社会の類似と相違などに着目して、戦後の諸改革の内容と日本国憲法の制定に関わる諸資料を読み取り、占領政策と諸改革について理解している。 b:戦後の諸改革が連合国の対日占領政策にもとづくとともに、戦争に対する日本国民の反省に支えられつつ実施されたことについて、多面的・多角的に考察し、表現している。 c:現代の日本との関係性を踏まえながら、占領期における諸改革が生み出した成果と課題について、主体的に追究しようとしている。	○定期考査 ○提出課題 ○発問評価	○定期考査 ○提出課題 ○発問評価 ○発表・レポート提出	○提出課題 ○授業態度 ○発表・レポート提出

※令和４年度以降入学生用

		第17章　高度成長の時代	1　55年体制 2　経済復興から高度経済成長へ	a:保守合同による自由民主党の成立から、経済成長を背景とする安定した保守政権の誕生に至る経緯について諸資料から情報を読み取り、外交・政治・経済を踏まえて理解している。 b:日ソ共同宣言をはじめとする国交交渉と国際連合への加盟、新安保条約・ＬＴ貿易・日韓基本条約・沖縄返還問題などの外交事案がもたらした課題を多面的・多角的に考察し、表現している。 c:55年体制の歴史的意義や、1960年代における保守政権の安定化を考察することを通じて、独立後の国内政治について主体的に課題を見出そうとしている。	○定期考査 ○提出課題 ○発問評価	○定期考査 ○提出課題 ○発問評価 ○発表・レポート提出	○提出課題 ○授業態度 ○発表・レポート提出
		第18章　激動する世界と日本	1　経済大国への道 2　冷戦の終結と日本社会の変容	a:ドル＝ショックや石油危機による世界経済の混乱に対応するため主要先進国首脳会議が開かれる一方、日本は石油危機を乗り越えて経済大国となったことを理解している。 b:日本が石油危機を乗り越えて経済大国となった要因について多面的・多角的に考察し、その結果を表現している。 c:第二次世界大戦後の日本の国際社会における様々な取り組みについて、課題を主体的に追究しようとしている。	○定期考査 ○提出課題 ○発問評価	○定期考査 ○提出課題 ○発問評価 ○発表・レポート提出	○提出課題 ○授業態度 ○発表・レポート提出

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度